

研究主題 探究的な学習を成立させるための諸要件の研究
～総合的な学習の時間の中で、特に『探究的な学習成立』に視点をあてて～

概要説明

私たちは、総合的な学習の時間の最も重要な部分は、『探究的な学習を通して児童が学んでいることである』と考えた。この『探究的な学習』に視点をしぼり、探究的な学習を成立させる諸要件を満たした単元の展開、また探究的な学習が不十分であると感じた時、どうすればそれを成立させていけるか、それを探ることにした。新たに単元開発を行い、その中で探究的な学習を成立させる諸要件を提案していく。

本研究の<キーワード>

- | | | | |
|-----------|---------|---------|-----------|
| ○ 目指す学習の姿 | ○ 教師の意図 | ○ スパイラル | ○ 言語活動の充実 |
| ○ 情報の可視化 | ○ 人材の活用 | ○ 協同 | |

I 研究主題

探究的な学習を成立させるための諸要件の研究

～総合的な学習の時間の中で、特に『探究的な学習成立』に視点をあてて～

II 主題設定の理由

昨年度、私たちは『総合的な学習の時間が「横断的・総合的な学習、探究的な学習」であることに視点をあて、その成立要件を研究してきた。単元開発の段階等で活用する『総合的な学習の時間の要件を満たしているかどうかを検討するチェックシート（単元チェックシート）』を考案し、実際にこれを活用した授業にも取り組んできた。この研究の中で、学校、学年、単元を問わず、単元を総合的な学習の時間として成立させるための要件を提案することができた。そして、総合的な学習の時間に関わる諸問題に一光を投じることができたと自負している。

さて、総合的な学習の時間の成立要件を探る中で、私たちは、その中の『探究的な学習』の重要性を改めて感じた。児童が、総合的な学習の時間の中で、真に学んでいるのは、探究的な学習が展開されている時である。探究的な学習とは、課題を持つ、情報を収集する、情報の整理分析しながら、既知の情報と結びつける、結果から得た考えや発見を表現する、他者の表現と交流させ、協同する中で新たな課題を持つという、発展的・問題解決的な学習である。

私たちはこの学習の中で、児童の『目指す学習の姿（学習指導要領解説総合的な学習の時間編 p 13 及び本稿『研究の内容』を参照）』を見出すことこそ、探究的な学習成立の証であると考えた。さらに、この探究的な学習が、一単元の中で、何度かスパイラルしながら繰り返されることも重要である。それには、教師の意図を、児童が自分事としてとらえ、その思いを持続させることができなければならない。ふれる・つかむという単元の初期の段階で、児童が課題をどれだけ自分事としてとらえているかが重要となる。その方策として、『情報の可視化』『人材の活用』『言語活動の充実』を提案したい。移行期最後の年にあたる平成 22 年度、年間指導計画等の見直しに、本提案を参考にいただければ幸いである。

III 研究の内容

本研究部では、探究的な学習を成立させるための諸要件を、①目指す学習の姿②教師の意図③スパイラル④言語活動の充実⑤情報の可視化⑥人材の活用⑦協同として位置付けた上で、各要件の関係を右記のように整理した。

児童の主体的な学びを引き出す探究的な学習であるが、その根底には明確な教師の意図が不可欠であり、教師の思いが単元を貫きながら目指す学習の姿に結びつくと考え。主役である子どもたちは、教師の意図という枠の中で、自ら課題を設定し、小さな課題解決学習を繰り返していく。

また、言語活動の充実、情報の可視化、人材の活用、協同という4つの要件を充実させることにより、課題がますます自分事となり、さらなる探究的な活動へと発展させることができる。

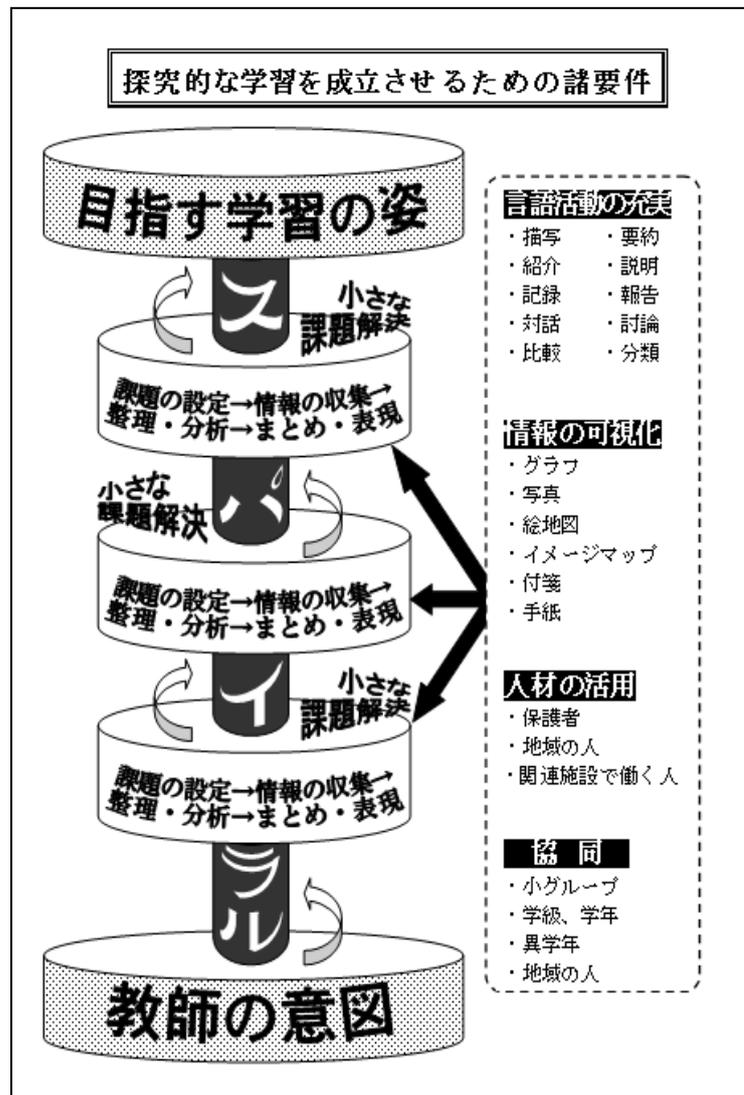
教師が適切な指導性を発揮し、且つ児童が主体性を発揮できる総合的な学習の時間にするためには何が大切なのか、研究員の実践例も加えて、各要件について述べていく。

(1) 目指す学習の姿

探究的な学習では、児童の豊かな学習の姿が現れる。児童は、事象を捉える感性や問題意識が揺さぶられて、学習活動への取り組みが真剣になったり、身に付けた知識・技能を活用し、その有用性を実感したりする。また、見方が広がったことを喜び、さらなる学習への意欲を高めたり、概念が具体性を増して理解が深まったり、学んだことを自己と結び付けて考えられるようになる。

このような児童の学習の姿を目指す学習の姿とし、研究を進めてきた。目指す児童の学習の姿を、次の4つとし単元の中で、見取っていくことにした。

- ① 事象をとらえる感性や問題意識が揺さぶられて学習活動への取り組みが真剣になる
- ② 身に付けた知識・技能を活用しその有用性を実感する



③ 見方が広がったことを喜び更なる学習への意欲を高める

④ 概念が具体性をまして理解が深まる

これらを見取っていく場面として、授業中のつぶやき、活動の様子、日常生活での行動、授業後の感想などを設定した。

(2) 教師の意図

児童自らが課題意識を持ち、その意識が連続発展することが欠かせないが、そこには教師のねらいが根底になければならない。例えば、教師のねらいに児童の意識を向かわせることができるような学習対象との出あわせ方・かかわり方などを工夫すること。知識や法則が学習活動に不可欠であると考えられる場合は、必要に応じて資料を提示したり説明したりする。また、児童が取り組みに行き詰っている場合には、過去に取り組んだ事例を示したり、児童の活動に対してその価値付けや方向付けをしたりするなど、積極的にかかわっていくことが考えられる。

(3) スパイラル

総合的な学習の時間では、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すことを目標としている。その中で、平成20年度の学習指導要領の改訂では、「探究的な学習」という言葉が新たに明記された。

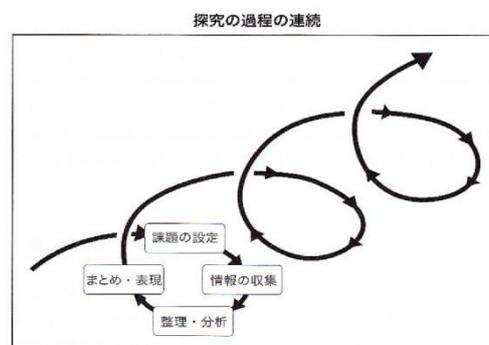
この、「探究的な学習」とは、問題解決的な学習が発展的に繰り返されていく一連の学習活動（一連の知的営み）のことである。

具体的には

- ①【課題の設定】体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ
- ②【情報の収集】必要な情報を取り出したり収集したりする
- ③【整理・分析】収集した情報を、整理したり分析したりして思考する
- ④【まとめ・表現】気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

という流れの学習活動である。4つの探究過程で順番が前後したり、1つの活動の中に複数のプロセスが一体化し同時に行われたりすることもありうる。さらに、①～④の学習活動をしていく中で、そこからまた新たな課題を見付け、さらなる問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返していく探究の過程は、何度も繰り返されスパイラルに高まり、より質の高い課題へと繋がることとなる。質の高い課題とはつまり、課題が児童にとって、自分事になっている課題のことである。学習を進めるほどに、課題を自分事として強く意識していけるようにしなければならない。スパイラルを意識することは、そのための要件のひとつである。

本研究では、探究過程を1サイクルで止めることなく、2サイクル3サイクルとスパイラルし、課題の質が高まっていくように指導計画を立てた。



(5) 情報の可視化

総合的な学習の時間を展開する上で、共通体験や調査活動、ゲストティーチャーとの交流といった教室外での活動は、児童にとって最も楽しみな時間である。普段なかなか経験できない非日常の時間から、好奇心旺盛な児童はたくさんの情報を受け取り、感情の高まりを実感することができる。

探究的な活動では、このときに得た情報や感動をエネルギーに変えて、さらなる課題解決へと発展させていくことが求められる。そのためには、集めてきた情報をしっかりと整理し、目に見える形に表さなければならない。グラフ、写真、絵地図などは、自分たちが得た情報を、事実に沿って改めて見つめ直すことで、特徴や問題などを発見することができる。自分たちの経験に基づいた事実が目の前にあることで、体験活動後の言語活動を活発に行うことができるのである。

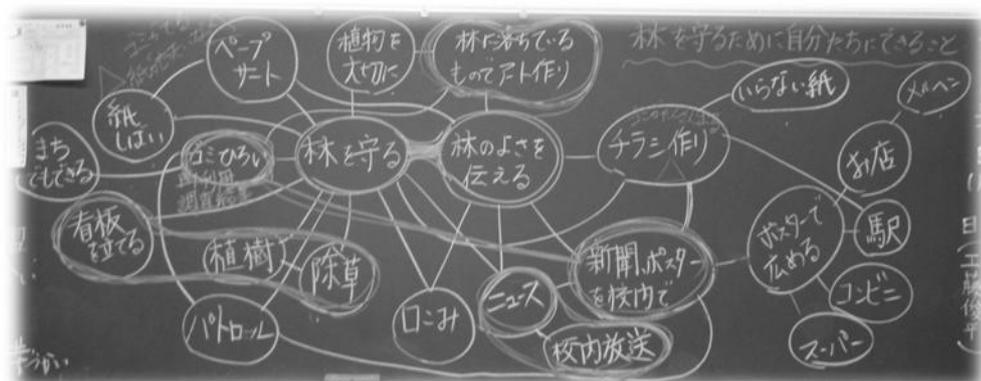
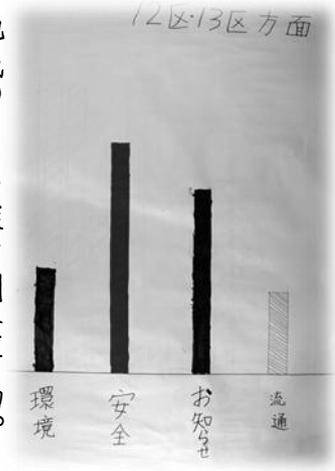
また、イメージマップや付箋の活用は、自己の考えを明確にした上で、グループや学級といった集団において、多様な個人の考えを共有したり、集団としての意志決定をしていくことができる、とても有効な方法である。特に付箋は話し合いながら意見を分類したりまとめたりしていくことが容易にでき、自分たちが活動の主役であるという自覚も高めることができる。

他にも、ゲストティーチャーからの手紙は、探究的な活動を情緒的な側面から支える資料として活用できる。課題に携わる人からいただいた手紙を読み取り、目に見えない思いを共有することで、これまでの自分たちの取り組みを見つめ直し、これから自分たちがやるべきことをより強く考えるきっかけになる。



撮影されたたくさんの写真。これらを分類していくと商店街の特徴が見えてくる。

各地域のよさを調べる調査活動。各地域のよさや特徴が見えてくる。



林を守るためにクラスとして何をしていくか、イメージマップを使って話し合う。「自分の思い」から「自分たちの思い」へ。

(6) 人材の活用

総合的な学習の時間では、保護者や地域の人々、専門家や社会教育施設・団体等の積極的な活用が望まれている。児童は、課題に見合った本物の事象を経験することによって、そこに携わる人々の思いに寄りそったり、課題に対して切実な思いを抱いたりすることができる。

地域に尽力する人々とのかかわりを通じて、児童が日々の生活の中で自己の生き方を考え続け、よりよい課題解決を目指して行動できるように、意図的に人材を確保することが大切である。



学校の周りにある林のことを説明してもらおう。「行ってみたいなあ。」「見てみたいなあ。」という気持ちが子どもたちの間に広がる。

自分たちで林探検に行くと、林のよさとともに、ゴミや開発などの問題にも気がつく。「林を守るのは簡単なことではないんだ。」ゲストティーチャーの大変さを知ること、植樹体験にも力が入る。

(7) 協同

学習指導要領で示された総合的な学習の時間の目標の中に「協同的に取り組む態度を育てる」ことが加わったのは、これからの社会において、他者と協力しながら身近な地域社会の課題解決に主体的に参画し、その発展に貢献しようとする態度を育むことが必要とされるからである。そのためには、お互いに考えや意見を出し合い、見通しや計画を確かめ合い、他者の考えを受け入れながら、探究的な学習を積み重ねていくことが大切になる。

友達と協同して取り組むことによって、学習活動が発展したり課題への意識が高まったりする。また、異なる見方があることで解決への糸口もつかみやすくなる。他者のよさを発見し、自分のよさを自覚できる協同的な活動の場面を計画的に導入することも、探究的な学習を成立させる重要な要件である。



集めてきた情報をグループの友達と整理するうちに、新しい気付きや発見が見つかる。



友達といっしょに植樹する場面。こうした体験を積み重ねるほど、相手との距離が縮まる。

IV 実践例

第6学年3組 総合的な学習の時間「キリンタイム」学習指導案

平成21年12月17日(木) 多目的室
在籍児童数 男子14名 女子13名 計27名
指導者

1 単元名 「素敵な街にするために～伸栄小街づくりプロジェクト～」

2 単元の目標

【学習方法に関すること】

- ・インタビューや学区調査を通して課題を発見し、問題状況に応じて収集した情報を分析することができる。

【自分自身に関すること】

- ・地域に対する考えを深め、自分に何ができるかを考え実践することができる。

【他者や社会とのかかわりに関すること】

- ・地域をよくしようとする人々の存在や活動があることを知り、友だちと協同して課題を見つけ、解決することができる。

3 児童及び地域の実態

(1) 児童の実態

①一般的な実態

本学級の児童は素直で男女の仲が良く、穏やかに生活している。1学期に行われた運動会では係活動を中心に積極的に活動するなど、最高学年としてしっかり取り組むことができ、その後の縦割り活動等からも日増しに自覚が強くなっていることが分かる。その一方で自分の気持ちを表現することが乏しい。授業では意欲的に取り組む反面、話し合い活動になるとなかなか自分の意見を発言できる児童が少なく、活発な議論にならないことが多い。

②総合的な学習の時間に関する実態

アンケートを実施したところ、本学級の児童は総合的な学習の時間に対して好意的に受け止めていることが分かる。しかし、探究的な学習の活動個々に目を向けると好意的ではないことが見えてくる。

課題設定については、学級全体として嫌いな児童の方が多い。嫌いの理由を見ると自分で課題を作ることに抵抗感を感じていることが分かる。これは、単元が「自分ごと」になっていないこと、「ふれる」段階で児童が課題意識を十分に持つことができないこと、が考えられる。

情報の収集については、ほとんどの児童が好意的に受け止めている。その理由として「知らなかったことが分かる」ことの喜びを感じている児童が多い。このことから、児童の知的好奇心は旺盛で自分の興味関心のある課題であればあるほど意欲的に情報収集ができると考えられる。また、教室以外での活動にも好意的なところから、自分の足で情報を収集することが知的好奇心をより満たすのではないかと考えられる。

整理・分析については、女子は半数以上が好きであるのに対して男子は半数以上が嫌いだと回答している。嫌いの理由として収集した情報をどうまとめていけばよいのか分からないと言う回答が多い。

5年生までのまとめ方を見ると、調べたことをそのまま模造紙に書いて終わりというものが多く、グラフ化等の工夫がなかなか見られなかった。そのため、まとめ方の引き出しを児童があまり持っていないことが考えられる。逆に、好きな理由として友達と協同してまとめることの喜びをあげる児童が多いことから、協同的に行うこととまとめ方の方法を知ること、意欲的に学習できるのではないかと考える。

まとめ・表現については、特に表現の部分で苦手だと感じている児童が多い。これはおとなしいという本学級の実態とリンクしている。他の教科においても発表の機会を増やしたり、小グループで発表を行ったり、児童の発言を今以上に肯定してあげたりすることが大切であると考え。加えて、単元に対する思いが強くなればなるほど、発表することに対する不安や恥ずかしさも軽減すると考える。

地域に対しては、地域に関する活動に参加する児童は多いが、かかわる人々の思いにあまり認識がなく、ただ「楽しい」「おもしろそう」という自分本位の思いで参加している傾向にある。そのため、育成会の行事では勝敗にこだわりすぎる結果、交流を深めるといふ大人の思いからかけ離れた言動が行われる時も見られる。

また地域に関しては、本学級の児童が自分の街を好きだとあまり思っていなかったり、この街にずっと住みたいと思う児童が少なかったりする実態もあり、地域を愛する気持ちをあまり抱いていないことも感じられる。

(2) 地域の実態

本校は所沢市の北東に位置し、西武新宿線新所沢駅から徒歩約20分に位置する。学校のすぐ西側には県道川越所沢線が走っており、交通量の多い地域でもある。38年前に開校した時は都心へのベッドタウンとして伸栄小学校区の住民が急激に増加し、一時本校の児童が1000人を超えたことがあった。その後、美原小学校と中新井小学校（現中央小学校）が開校し、児童数も分散した。その頃に作られた街であり、南にアメリカ軍通信基地がある以外は、狭い路地に一戸建て住宅が密集している。また小さな商店街もあるが、縮小傾向にある。

本地域は約40年前から住宅地として開発されており、それ以前からの住民よりも他の地域から移住した住民が非常に多い。学校を中心として東側が中新井地区、西側が花園地区となっていて、どちらの地区も夏休みには地域の交流を深める場として夏祭りが開かれている。また、子ども育成会の活動も活発で、相撲大会やドッジボール大会、かるた大会など児童のための行事が数多く行われている。それらのことから、地域の絆を深めようとしていたり児童の育成や他の地域の児童との交流を大切にしたりしようとする思いが地域に存在する。

4 単元について

日本人は自分の生まれ育った街を故郷と呼び、故郷に強い愛着を持つ傾向が強い。一方で、故郷を出て、違う街で生活を始める人も多く、そこで生まれた子どもたちはその街が故郷となる。そのように人々の移動が昔と比べて格段に増加した近年、各地で、その地域に住んでいる人たちが自分の街を故郷として大切にしようとする活動が各地で広がっている。

しかし、その街が故郷である子どもたちには住んでいる街を故郷とは思っても、強い愛着を感じることは少ない。主な理由として、他の街に住んだことのない子どもたちにとっては比較する街もなく、確実に存在する街の良さに気付けないことが考えられる。

どの街にもたくさんの良さがある。施設や店などの「もの」。街をよくしようとする「ひと」。その

人が行っている活動である「こと」。その良さは街に住んでいる人々が作り上げている。その良さを子どもたちが捉え、自ら行動できるようにさせることが大切である。

地域の良さを知るために、本校では3年生で「地域の名人探し」、4年生で「地域の環境（ゴミ問題）」、5年生で「地域の福祉（バリアフリー等）」と、地域を様々な角度から視点をあてる学習をしてきた。本単元「素敵な街にするために～伸栄小街づくりプロジェクト～」は、4年間の総合的な学習の時間の集大成としてこれまでの学習を生かしながら地域の良さを再確認し、地域を大切にしていこうとする態度を育んでいきたい。

そのためにまずは地域を詳しく知る活動を行っていく。その中で地域の人々の地域に対する思いを学ぶことを通して、地域を見直すことができる。人々の思いや具体的な活動についてより深く調査していき、地域の人々の活動に強くふれることで、これからも本地域で生活していく児童にとって「自分たちの街をよりよくするためにはどうしたらよいか。」「自分たちにも何かできないか。」を探究的な学習を重ねて解決していく。

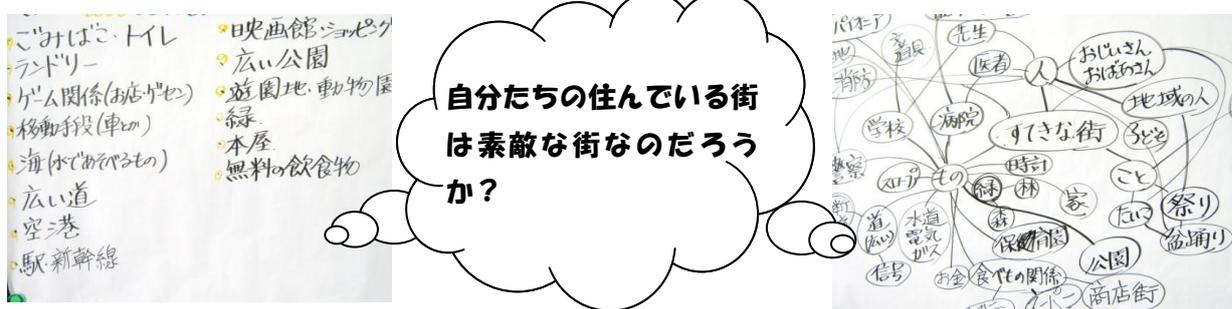
本単元を通して人と人とのつながりの大切さを知り、児童が今後の生活で多くの人に思いやりを持って接していこうとする態度も育んでいきたい。

5 単元の目標達成の手だて（所沢市教育センター研究員研究との関連も含めて）

《手立て1》探究的な学習の充実に向けて

小学校指導要領解説「総合的な学習の時間」編において、探究的な学習とは「物事の本質を探つて見極めようとする一連の知的営みのこと」とし、具体的には①課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現という問題解決的な一連の活動が発展的に繰り返される学習活動のことだと明記されている。そこで、所沢市教育センター研究員研究として本単元の学習活動の中に①～④が何度も繰り返されることで児童の課題意識を連続的に発展させるような学習にしていくことを研究の柱にした。具体的に次のような活動をしていく。

ふれる段階では「こんなもの・ひと・ことがあったらいいな」という課題のもと、あると便利なものなどを出し合い、逆に「ないと困るものは」「この地区にあるものは」と問うことで、自分たちの理想と現実を比較する。そして、街を構成するものとして「もの」「ひと」「こと」があるということを確認する。



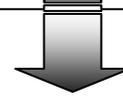
つかむ段階では「伸栄の街はどんな街？」という課題から、どうすれば自分たちの住む街の特徴が見えてくるのか話し合う。話し合いをもとにマッピングをしたりしながら地域の特徴を浮かびあがらせていく。と同時に、「地域のすてきなところはどんなところだろう」という課題も考えていく。その中で地域の特徴を知るとともに、地域には住んでいる人のことを考えた施設や実際に地域のために活動している人がいること取り組みがあることをとらえる。

地域調査を元に作製した地図



「もの」はすてきな街にするため欠かせないものだね。

「ひと」「こと」はすてきな街するために必要なのかな。



地域の人にインタビューしよう！

次に「地域のために活動している人はどんな人がいるのか、どんな活動をしているのか。」という課題から、地域の人たちへのインタビューや再度の地域の実態調査を行う。そこで地域の方々の思いに触れ、人々に触れ合うことの大切さや人々によって行われる活動の意義を強く感じさせることで、「ひと」「こと」に課題を絞っていく。

インタビューの様子



どんな活動をしていますか？

なぜこのような活動をしているのですか？



インタビュー結果のまとめ

見やすくまとめるにはどうしよう？



このデータはこのグラフがいいと思うよ。

調べる段階では「地域に対して何か行動をすることですてきな街にする手伝いをしていこう」という課題のもと、実体験や調査活動を中心に組み込んでいく。児童は活動したことを整理・分析する中で新たな疑問が生まれてくると思われる。疑問をまた新たな課題として活動させていく。具体的な課題については児童の思いによって決まっていくものなので、現時点では未定である。しかし、「ひと」「こと」を中心とした活動であることを確認することと、実現可能な課題であることを児童にも意識させることで課題と児童の思いが広がりすぎないように留意したい。

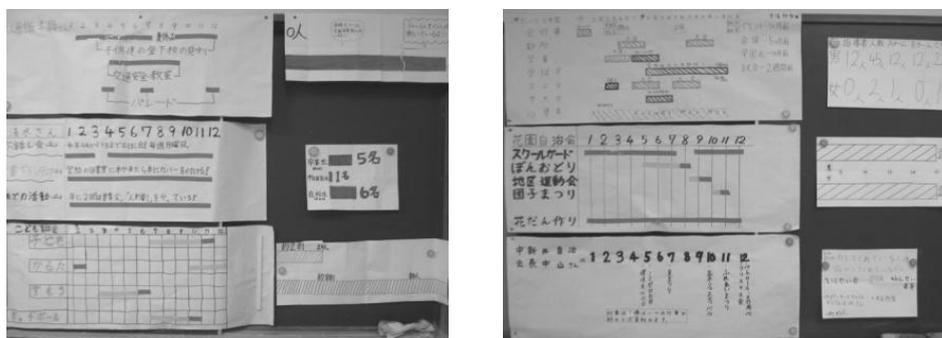
まとめる段階では「これまでの活動を振り返ろう」として、今までの活動をもう一度整理・分析することで振り返りを行う。その際、作文やパソコンのプレゼンテーションソフト等まとめ方の工夫しながら自分の考えをまとめていく。そうすることで課題に対しての理解を深めるとともに、「ひと」「こと」のつながりの大切さに気づけるようにするだけでなく、地域に対しての思いを深められるようにしたい。

《手立て2》まとめる段階での言語活動の充実に向けて

学習を進めていくにあたって、今後の学習の方向性を考えていくために話し合い活動を多く取り入れていくこととする。その際、多くの情報や綿密なデータを論拠とした話し合いを行う。たとえば、地域の実態調査で得られた情報をシールの添付や付箋や写真を使うなど集めたデータを資料によって表し方を工夫することで視覚的に捉えやすくする。そして、自分たちの思いと地域の人たちの思いを比較したりすることにより深みのある話し合い活動にしていく。

本単元では、地域を知るために花園・中新井両地区の白地図を用意する。そこで、「この地図に地域の様子が分かるためにはどうすればよいか」を考えさせ、「見やすい・分かりやすい」の観点からシールの添付によるまとめを導き出す。また街の工夫や児童の思うすてきなところなどシールでは表示できないことをどうすれば地図上に表すことができるかを考えさせることで、写真（サムネイル印刷）や付箋の利用を児童の話し合いから挙げさせる。本時ではゲストティーチャーのインタビューを年次表等に整理し、事実を中心に共通項を考えさせる。その中からゲストティーチャーの思いを深く探っていけるようにしていきたい。

インタビュー結果を元に作成した資料



グループでの話し合い



共通していることは何だろう…

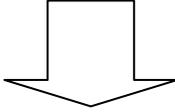


みんなの考えをまとめると…

全体での話し合い



6, 指導計画 (60時間扱い・本時26/60時)

	○活動内容 ・学習活動	・指導上の留意点 ◇評価	探究の過程
6 時 間 ふ れ る	<p>○素敵な街の概念を固める。(6)</p> <p>「素敵な街ってどんな街？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんな「もの」「こと」「ひと」があったらいいのに。 ・こういう「もの」「こと」「ひと」は必要ではないのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【予想される児童の気づき】(◇あったらいいもの ◆必要なもの)</p> <p>☆もの</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇娯楽施設 (ゲームセンター、ボーリング場) ◇ショッピングセンター ◇おもちゃ屋 ◇広い道 ◇大きな公園 ◇緑 (森など) ◆学校 ◆病院 ◆警察 ◆消防署 ◆横断歩道や信号 <p>☆こと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇お祭り ◇街をきれいにする運動 ◆お祭り ◆ゴミ拾い ◆木を植える活動 <p>☆ひと</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇有名人 ◇安全を守ってくれる人 (警察等) ◆スクールガードの人たち ◆技を持っている人 ◆祭りの太鼓を教えてくれる人 ◆ゴミをいつも拾ってくれる人 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>☆自分の住んでいる街は、みんなにとってすてきな街なのだろうか。</p> <p>☆地域に出てよく調べてみる必要があるのでは。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージマップをクラス全体で作成していくことで多様な情報を出し合うようにする。 <p style="text-align: center; margin-top: 200px;">◇自分なりの「すてきな街」の姿を考 えることができる。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 20px; text-align: center;"> 課題の設定 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 20px; text-align: center;"> 情報収集 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 20px; text-align: center;"> 整理・分析 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> まとめ・表現 </div>

つ か む 2 2 時 間	<p>○自分たちの住んでいる街を様々な角度から再確認する。(8)</p> <p>「仲栄の街をもう一度詳しく調べて、どんな街なのか調べよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区の調査 ・マッピング・時系列表による整理 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">課題の設定</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">情報収集</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">整理・分析</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">まとめ・表現</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">課題の設定</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">情報収集</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">整理・分析</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">まとめ・表現</div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【予想される児童の反応】</p> <p>◎地域の実態調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家が多い ○お店が多い ○大きい道が通っている ○ミラーや標識など、安全を守るものが多い。 ○せまい路地にも街灯がついている。 ○街路樹が落葉樹なのに、歩道に落ち葉がほとんどない。 ○街路樹の根元に花が植えてある。 ○ごみ置き場にネットなどの工夫がある。 ○学校や歩道で落ち葉掃きをしている人がいる。 ○マンホールにきれいな絵が描いてある。 ○地域や子どもが関係する行事が多い ○1年を通して色々な行事がある ○地域や学校の行事に参加している人が多い ○子どもや地域のことを考えてくれている人が多い。 ○スクールガードの方がたくさんいる。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ☆住んでいる人のことを考えて街が作られている。 ☆すてきな街にするために多くの人が活動してくれている。 ☆なぜ街のための活動をしているのだろうか。 </div>	
	<p>○地域のために活動してくれている方々への調査を行う。(6)</p> <p>「地域のために活動してくれている人や活動を詳しく調べよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区自治会長 ・子供育成会長 ・交通指導員 ・読み聞かせグループ ・スポーツ少年団の指導者 	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【押さえておきたい調査項目】</p> <p>◎事実として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年間の主な活動 ・そのための準備期間 ・関わっている人の数 <p>◎心情として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動している理由 ・地域や子どもたちへの希望 ・苦労や喜び </div>	

○人への調査活動をもとにクラスとしての課題を考える。(8) 本時6/8

「地域にかかわる人々について調べたことをもとに、もう一度街の良さを整理しよう。」

「伸栄の街をもっと素敵な街にするために自分たちができることは何だろう。」

【おさえておきたい事項】

- ・活動をするのに長い準備期間を要している。・「地域や子どものために」を第一に活動してくれている。・地域・子どもをよくしていきたいという思いが強い。・成功したときの喜びが次への動機付けになっている。

【指導上の留意点】

- ・様々な視点から地区の特徴を探っていくようにする。
- ・地域調査に行くときは、次の点を留意する。
 - ※話し合いをもとに調査での視点を明確にしておく。
 - ※具体的・科学的なデータを集めるようにする。
 - ※調査前に予想を立てておき、調査前と調査後の比較ができるようにしておく。
- ・収集した情報をどうやったら見やすいかを考えさせるなどして整理分析を行う。
- ・児童の気づきを板書し、まとめていくことで、意見のつながりや今後の方向性が見られるようにする。
- ・話を聞かせていただいた方には、その後の調べ学習においてもアドバイスしていただき、より深く課題を追究することにつなげる。
- ・ひと・もの・ことのデータがバランスよく集まるように話し合いをしながら情報収集を図る。
- ・課題設定に導く際、人とのつながりを第一に考えていくようにする。

◇地域のことについて進んで調査活動をしている。

◇地域をよくしようとする人たちがすてきな街づくりの大きな要因であることに気づくことができる。

◇できる限り多くの情報を収集することができる。

◇情報を見やすく分かりやすいように整理することができる。

◇整理された情報をもとに課題を分せきすることができる。

整理・分析

まとめ・表現

課題の設定

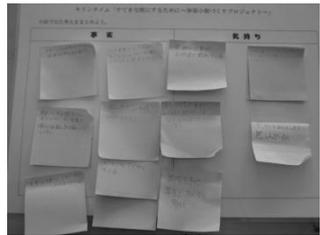
<p>調 べ る</p> <p>1 6 時 間</p>	<p>○課題解決のための活動をする。</p> <p>(16)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【予想される課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への感謝会をしよう。 ・地域のごみをなくそう。 ・お年寄りを喜ばせよう。 ・地域の安全マップを作ろう </div> <p>○地域に出て活動を行う。</p> <p>○中間のまとめを行い、課題に対しての軌道修正を行う。</p>	<p>・活動の際には協同的な学習を充実させる。(グループ活動など)</p> <p>・情報を収集・分析するだけでなく、実生活に目を向けながら実際に試してみたり見学したりする活動が展開されるよう支援する。</p> <p>・探究活動が充実するように、学習支援員を加配したり時間割を弾力的に取り扱ったりする。</p> <p>◇友だちと協力して活動している。</p>	<p style="border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px; text-align: center;">課題の設定</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px; text-align: center;">情報収集</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px; text-align: center;">整理・分析</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px; text-align: center;">まとめ・表現</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px; text-align: center;">整理・分析</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px; text-align: center;">情報収集</p>
<p>ま と め る</p> <p>8 時 間</p>	<p>○学習成果発表会に向けて、調べて分かったことや活動を通して考えたことをまとめる。(8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級で話し合い、多様なまとめ方があることを知る。 ・自分達に合った発表内容や発表方法を決定する。 ・活動の流れや学習での思いを中心にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表方法それぞれの良さや課題をしっかりと見極めさせることで、最良の発表方法を見つけさせる。 ・発表を行う際に、その中で一人ひとりの思いが記されるように助言する。 <p>◇今までの活動や分かったことを中心に簡潔にまとめることができる。</p> <p>◇適切な発表方法を選び、まとめることができる。</p>	<p style="border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px; text-align: center;">整理・分析</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px; text-align: center;">まとめ・表現</p>
<p>発 信 す る</p> <p>4 時 間</p>	<p>○学習成果発表会を開く。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年全体で発表会を行う。 ・お世話になった方や保護者を招待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や協力者を招待しお世話になった方々にも学習成果を発信する。 ・情報機器や実物など発表方法に応じて、場の設定を工夫する。 <p>◇友だちの発表を聞いて、自分の考えを広げることができる。</p>	<p style="border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px; text-align: center;">まとめ・表現</p>
<p>振 り 返 る</p> <p>4 時 間</p>	<p>○学習してきたことを振り返る。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、地域とどう関わっていくかについて学級で話し合う。 ・活動を終えて、自分なりの感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いでは、これからの生活に目を向けることで、意識が継続するよう留意する。 <p>◇これから地域とどう向き合っていくかを考えることができる。</p>	<p style="border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px; text-align: center;">まとめ・表現</p>

7, 本時の活動

(1) 本時の目標

人々の活動や思いを整理することで, 他の人の喜びが自分の喜びになることに気づくことができる。

(2) 活動の展開

児童の活動	指導上の留意点 (○) 評価 (※) 支援 (◇)	時間
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> 地域にかかわる人の思いを話し合おう </div>	<p>○学習課題を確認する。</p>	2分
<p>2 資料を見たり発表を聞いたりした中で、共通していることを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの話し合い  <ul style="list-style-type: none"> ・全体での話し合い <p>T「各班のデータから共通していることは何ですか。はじめに事実だけ発表してください。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">【予想される共通事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間活動している。 ・ 準備期間が長い。 ・ 女性の方が多い。 ・ 若い人が少ない。 ・ 無償でやっている。 ・ 地区によって活動が違う。 ・ 子供に関係する行事が多い。 </div>	<p>○はじめにグループで話し合いをさせることで、多く考えを出させるようにする。</p> <p>○事実と気持ちを分けて共通点を見つけさせる。</p> <p>○グループの発表では、時間を有効に使うために付箋を利用する。なお、付箋は2種類用意する。 桃色・・・全体に共通すること 青色・・・3つ以上に共通すること</p>  <p>○資料から読み取れることを中心に共通事項をできるだけ多く考えさせる。</p> <p>○黒板に大きな資料を掲示しておくが、掲示してある資料の縮小版を各グループに用意し、その資料を参考に話し合いをさせる。</p> <p>○グループの発表では、自分の考えの良さを確認したり、友達の考えを聞いて自分の考えを広げたり深めたりする。</p> <p>○児童から出てきた共通事項を事実と心情に分けて板書する。</p> <p>※地域にかかわる方々や活動について事実に基づいて理解し、情報を分析することができる。 【学習方法】</p>	15分

3 共通事項をもとにゲストティーチャーの思いを話し合う。

T「共通していることを見て、どう思いますか。」

【出させたい児童の感想】

- ・とても大変だ。
- ・自分ならできないかもしれない。
(根拠)
- ・1年間活動している。
- ・準備期間が長い。
- ・無償でやっている。

T「では、気持ちのところで共通しているものを発表してください。」

【予想される共通事項】

- ・やっていて良かった。
- ・子供や地域のためならがんばれる。
- ・今後も続けていきたい。

「みんなは大変だと思っているけど、ゲストティーチャーの方はむしろ楽しんでるね。では、何でこういう風に思えるのだろうか。」

【予想される児童の考え】

- ・人のためなら頑張れるのでは。
- ・人にすることで喜びが感じられると思う。
- ・こういうことをすることが好き。
- ・自分がしてもらったから他の人にやってあげたいと思う。

○共通事項から活動をしている人たちへの印象を出し合わせる。

- ・板書された共通事項 ・各グループがまとめた資料

○「自分だったらどう思うか」という視点で考えさせる。

○それぞれのゲストティーチャーへの調査から得た、その人ならではの苦労を具体的に挙げさせる。

- ・インタビューの内容 ・活動の様子からの印象

○児童の感想を出させた上で、気持ちの共通事項を発表させる。

○児童の「大変だ」という感想と、ゲストティーチャーの「今後も続けたい」という気持ちのギャップに気づけるようにする。

○そこまで苦労しながらも続けているのはなぜか考えさせる。

- ・インタビューの内容 ・自己の生活経験

◇児童が考えに窮したときは、グループで話し合わせる。

○根拠を明らかにしながら考えたり、話し合わせたりする。

※資料や自身の体験から地域の人々の心情に迫ることができる。
【学習方法】

4 ゲストティーチャーの話を聞く。

T「みんなが考えてくれたけど、実際にどう思っているか聞いてみよう。」

読み聞かせグループの清水さんの話



4 本時の活動をまとめる。

- ・感想の記入、発表
- ・本時の振り返り

○ゲストティーチャーと事前に打ち合わせをしておき、「人のためにやることが次の世代につながっていくこと。人に喜んでもらえることが次へのモチベーションになること」を含めて話してもらおうようにする。

○清水さんの話を聞いて感じたことを中心に感想を書かせる。

○まとめの中に、「何かしていきたい」という視点で書いている子どもを意図的に指名し、発表させる。

○しっかりと情報を分析・整理することで、地域の方々の心情に迫れたことを称賛する。

※話し合いの内容から地域をよりよくしようとする思いを持つことができる。 【自分自身】

8
分

V 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

総合的な学習の時間の見直しが、各校で進められている。

総合的な学習の時間が設けられてから十年以上が経過し、色々な問題点が問われてきたが、昨年度の学習指導要領改訂に伴い出版された学習指導要領解説書は、その問題点を全て解決する羅針盤的存在である。各校で進められている見直しは、この学習指導要領解説に沿って行われている。

私たちの研究も、この解説に沿って行われたものである。本研究の7つの視点①目指す学習の姿 ②教師の意図 ③スパイラル ④言語活動の充実 ⑤情報の可視化 ⑥人材の活用 ⑦協同も、この解説を読み込む中で設定したものである。この視点の中から、①の、目指す学習の姿に焦点を当ててまとめたい。

目指す学習の姿は、報告書の冒頭にも書いたが、小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 P13に具体的に述べられている。

『探究な学習では、次のような児童の学習の姿を見出すことができる。事象をとらえる感性や問題意識が揺さぶられて学習活動への取り組みが真剣になる。身につけた知識・技能を活用し、その有用性を実感する。見方が広がったことをよろこび、さらなる学習への意欲を高める。概念が具体性をままして理解が深まる。学んだことを自己と結び付けて、自分の成長を自覚したり、自己の生き方を考えたりする。』

これらの姿を見出せたとき、総合的な学習の時間が真に機能し、豊かな学びが成立していると考えられる。昨年12月に行われた検証授業の中で児童が書いた授業後の感想からも、これらの学びの姿を見出すことができる。

- 私は、この授業結果を、「子ども達に私達がそういう行事をやることによって、子ども達も大人になったら、うけついでくれる！」と思っていたのですが、清水さんも子どものころ大人の人にそういう行事をしてもらったことで、今、大人になって私たちのためにやってくれているので、私も、大人になったら、子ども達に喜んでもらえるような行事をしたいと思いました。
- 大人の人たちが、子どものためにいろいろイベントを考えてくれてうれしいです。ぼくも大人になったらいろいろなボランティア活動に参加してみたいなあと思いました。

※波線部分は、これまでの自分のとらえ方である。このとらえ方が、学習を通して傍線部分に発展している。これは、学んだことを自己と結びつけ、自己の生き方を考えているととらえることができる。

- 今日の授業でボランティアの人は、ぼく達のために楽しい行事を何ヶ月も前に準備をしてくれたり、地域の人たちのためにいろいろがんばってくれたりしているんだと思いました。
- 私は子どものためにみんなが活動していることがわかりました。子どものためというのは、子どもの将来や、今、ボランティアをしている人が、子どもだった時に思ったことを考えているんだと思いました。

※この振り返りからは、見方が広がり、また、ボランティアに対する概念が、具体性を増していることが読み取れる。

- ボランティアをやってくれている人たちは、みんな子どものためと言ってくれている人が多くて、地域の人たちにも、今まで以上に、もっと感謝しなければいけないなと思いました。そして、いろいろと活動をするのには、時期を考えたりしないといけないので、大変だなと思いました。あと、行事の準備など、期間が長いなあと感じました。ボランティアをやってくれる人たちは、子どものために活動をしてくださっているのには、理由があつて、それは、子ども達のあいさつや笑顔や元気が、勇気をくれるからと言っていました。

※この振り返りを書いた児童は、概念が具体性を増して理解が深まり、また、学んだことを自己と結び付けて、自分の成長を自覚したり、自己の生き方を考えたりしている。

これ以外にも、例えば、「どうしてだろう?」「なぜなんだろう?」という言葉、「へえ!すごい!」という素直な驚きなどからは、事象をとらえる感性や問題意識が揺さぶられている様子を読み取ることができる。こういう気持ちが、そのあとの学習活動への取り組みに主体性を持たせる。また、グラフ化したり、国語で身につけたメモなどを用いての話し合いをしたりする姿、話し合いのあと、友達の考えを聞いて面白かった等の発言からは、身につけた知識・技能を活用し、その有用性を実感しているととらえることができる。

こういう姿を見つけられるような単元を立ち上げなければならない。そして、授業を進めていく中でこういう姿を活動する中から見取っていく教師のまなざしこそ、探究的な学習を支える、一番大切な部分なのである。

2 今後の課題

- 2年間の研究の中でこの後の時代を生き抜いていく児童にとって、総合的な学習の時間で学ぶことの重要性を実感した。また、子ども達の価値観を高めたり、協同して進めていく中で関係を広げ深めたりしていける部分から、学級経営や学年経営の中心になり得ることも実感した。しかし、まだまだ教師間でさえも、温度差が激しいことも事実である。今後、この重要性をさらに伝えていく必要がある。
- 子ども達の学びの姿の見取り、その観点、方法など、教師側のスキルを高めていくことが重要である。どれだけ児童がよい活動をしていても、その中に価値を見出せなければ評価につながらない。また、教師一人に対応していく時、全員の学んでいる姿を一度に把握することは不可能である。その観点や方法についてさらに研究を積み重ねていくことが課題である。
- 実践した資料の積み重ねが大切である。付箋を用いた話し合いのときの模造紙、シールを貼って分布を考えた白地図等を保存していくことで、児童にとっては意識の継続が図られたり、課題に行き詰まったときの参考資料になり得たりする。また、教師にとっても単元開発の資料として活用できる。それらの効果的な掲示の仕方や組織的な保存方法も今後の課題である。
- 単元開発で大切なことは、教師の協同であると実感した2年間であった。『協同(思いを同じくして事に当たること)』の重要性は児童も教師も同じである。今後、さらに総合的な学習の時間が、児童、そして私たちにとって意義深い学びの場となることを願い、研究のまとめとする。